

岡崎大学懇話会 が取り組む 地域の課題解決 2025！

参加
無料

どなたもお気軽に
ご参加ください

岡崎市内大学の研究者が
地域活性化についての研究成果を発表します

主催 岡崎大学懇話会

後援 岡崎市
NPO法人21世紀を創る会・みかわ

第25回 地域活性化フォーラム

25th Regional Vitalization Forum

2026年 3月3日(火) 13:30~16:35

会場 岡崎女子大学 岡崎女子短期大学

熱中症対策アンバサダー学生が広げる 熱中症予防の輪

愛知学泉大学 家政学部こどもの生活学科 講師 高田 由基

令和7年度 地産地消推進

令和版「おかず番付表」(JA あいち三河 Ver.) の作成

愛知学泉短期大学 食物栄養学科 教授 山本 淳子

「図書館交流プラザ りぶら」を絵本の世界観で彩る憩いの場づくり

愛知学泉短期大学 生活デザイン総合学科 講師 村上 拓也

メタバースとスマートデバイスを活用した高齢者の健康支援に関する実証研究 ー地域施設との連携による実用化検証ー

愛知産業大学 経営学部 総合経営学科 教授 石橋 豊

救急搬送データから見る岡崎市の救急医療の現状と課題

人間環境大学 環境科学部 環境データサイエンス学科 教授 薄井 智貴

岡崎市の介護現場における心理的安全性を高めるスパイラルアップ研修の開発

岡崎女子大学 子ども教育学部 子ども教育学科 講師 長谷 守紘

■ 連絡先

〒444-0015 岡崎市中町1-8-4 岡崎大学懇話会事務局(岡崎女子大学 岡崎女子短期大学)

TEL: 0564-22-1295 FAX: 0564-28-3310 E-mail: dsomu@okazaki.ac.jp



岡崎大学懇話会HP

プログラム

13:30～13:45

オープニングセレモニー 来賓挨拶(予定)、主催者挨拶: 岡崎大学懇話会 会長(予定)

13:45～14:05

愛知学泉大学 家政学部こどもの生活学科 准教授 高田 由基(専門: 体育科教育、運動学)

熱中症対策アンバサダー学生が広げる 熱中症予防の輪

毎年のように深刻化する熱中症は、岡崎市にとっても重要な健康課題の一つである。適切な対策や市の取組みを広げるため、「熱中症対策アンバサダー」の資格を取得した大学生が、市内の小学校や保育施設に出向き、特別授業を実施した。熱中症の基礎知識や予防のための行動、健康な生活の重要性の他、ポスターによる啓発やクーリングシェルター設置などの市の取組みをわかりやすく伝え、学びを家庭や地域へ広げる工夫を行った。その授業内容や子どもたちの反応、学生の学び、産官学が連携して地域の健康意識向上を図る実践モデルの可能性について報告する。



14:15～14:35

愛知学泉短期大学 食物栄養学科 教授 山本 淳子(専門: 食品科学、調理科学)

令和7年度 地産地消推進 令和版「おかず番付表」(JA あいち三河 Ver.)の作成

愛知県は多くの野菜が栽培されているにもかかわらず、野菜の摂取量が少ない。本学科は、JA あいち三河との産学連携を締結している。そこで、管内である岡崎市・幸田町を中心とした地域食材を広くアピールすることを目的に、多くの野菜の摂取が手軽にできるレシピを開発する。今年度は、令和版「おかず番付表」(JA あいち三河 Ver.)という形で、江戸時代に流行したおかずのランキング表を現代風にアレンジしたリーフレットを作成する。料理ランキングは、食品材料実験の授業で話し合いを進め、試作を行い、評価会により決定した。リーフレットデザインは、愛知産業大学スマートデザイン学科と協力して実施した。これらの内容について報告する。



14:45～15:05

愛知学泉短期大学 生活デザイン総合学科 講師 村上 拓也(専門: Webデザイン・グラフィックデザイン)

「図書館交流プラザ りぶら」を絵本の世界観で彩る憩いの場づくり

「図書館交流プラザ りぶら」は、図書館を中心に、生涯学習や文化活動、市民交流の拠点として親しまれている複合文化施設です。同施設では、館内でゆったりと過ごせる憩いのスペースづくりが課題となっていました。そこで岡崎市生涯学習課からの依頼を受け、村上研究室がデザインの力で課題解決を試みました。著作権の保護期間が終了した絵本を題材に、その世界観を立体的に表現した体験型コンテンツを制作し、子どもたちが中に入って遊べる空間を創出しました。本企画「360°仕掛け絵本」は12月の約1か月間限定で展示され、2025年度の企画として『不思議の国のアリス』を題材に、多くの来館者が楽しめる場となりました。



15:15～15:35

愛知産業大学 経営学部 総合経営学科 教授 石橋 豊(専門: 情報通信・ネットワーク)

メタバースとスマートデバイスを活用した高齢者の健康支援に関する実証研究 ー地域施設との連携による実用化検証ー

高齢化の進展に伴い、高齢者の心身機能脆弱状態(フレイル)の予防・早期発見・回復支援は、地域社会における重要な課題である。本研究では、知の拠点あいち重点研究プロジェクト第IV期(2022年度～2024年度)において開発したメタバースによる歩行支援システムに、スマートウォッチから取得した脈拍データを歩行支援システムへリアルタイムに連携し、カルポネン法に基づいて有酸素運動域となるよう歩行負荷を調整する歩行ペース表示機能を実装した。現在、地域施設での活用を見据え、学生による予備実験を通じて本機能の有効性を評価しており、本発表ではその結果と実用化に向けた課題などについて報告する。



15:45～16:05

人間環境大学 環境科学部 環境データサイエンス学科 教授 薄井 智貴(専門: 空間情報学)

救急搬送データから見る岡崎市の救急医療の現状と課題

近年、岡崎市では高齢化の進行や人口集中の影響により、救急医療への需要が年々増加しており、それに伴って救急業務の重要性も一層高まっています。一方で、救急車両や救急隊員といった救急資源には限りがあるため、すべての要請に対して迅速かつ的確に対応することが次第に困難になりつつあります。こうした状況を踏まえ、本研究では過去5年間の救急搬送データを分析し、逼迫する救急業務の現状と課題を明らかにするとともに、業務の最適化による救急隊員の負担軽減と、市民に対する安心・安全なサービスの向上を目指した取り組みについて報告します。



16:15～16:35

岡崎女子大学 子ども教育学部 子ども教育学科 講師 長谷 守紘(専門: 心理学)

岡崎市の介護現場における心理的安全性を高めるスパイラルアップ研修の開発

介護現場では、人材定着やサービス質向上が課題となっています。こうした課題を解決するためには、職員一人ひとりが安心して働ける「心理的安全性の高い職場づくり」が重要です。心理的安全性とは、誰もが率直に意見を述べたり、疑問や不安、アイデアを安心して共有できる職場環境のことを指します。本研究では、岡崎市の介護施設の管理者を対象に、心理的安全性の必要性や高め方を学び、実践と振り返りを重ねていく「スパイラルアップ研修」を開発しました。研修を通して、職場の雰囲気や職員のウェルビーイング(心身の健康や働きがい)にどのような変化や効果が見られたのかを検討しました。



会場・アクセス

会場: 岡崎女子大学 岡崎女子短期大学 岡崎市中町1-8-4

バスでお越しの場合

名鉄「東岡崎駅」から

名鉄バス北口①番乗り場から「岡崎げんき館前」行き、または「岡崎げんき館前」経由に乗り車
→ 「岡崎げんき館前」下車 → 徒歩5分

※ ②番乗り場から①番乗り場に変更になりました。

JR「岡崎駅」から

・名鉄バス東口①番乗り場から「岡崎げんき館前」経由に乗り車
→ 「岡崎げんき館前」下車 → 徒歩5分・名鉄バス東口①番乗り場から「名鉄東岡崎駅」行き、
または「名鉄東岡崎駅」経由に乗り車
→ 「名鉄東岡崎駅」下車 → 上記「名鉄東岡崎駅」からの方法に乗り換え